



同窓会会長 吉田和郎（同福大垣・99 信徒奉仕卒）

2019年4月6日（日）愛知県江南市にある「すいとぴあ江南」で開催された神学塾の春のリトリートに参加しました。

最初の集会は、自己紹介から始まりました。まず最初に、名前と所属教会、そしてその後に、導かれたことの証を2分以内で語ることになりました。（参加者は25人ほどでしたから、それでも50分は必要です。）はじめから嫌な予感（タイムオーバーになりそう）が走ります。

最初は塾生会長の杉浦さん。医師であり、松原湖のキャンプでの出来事を語ってくださいました。そして、タイムキーパーを申し出てくださいました。

ドウロス号に4年間乗っていた方とか波乱万丈の人生の最中ですから、本当に一人一人の証は千差万別で、引き込まれるものがありました。当然、2分間では語り切れません。タイムキーパーは大忙しでした。

私自身は、何を語ったか記憶がないのですが、たぶん時間がなくて少しだけ語ったのではないかとおもいますが、食事の時に、隣の人たちに語ったことをここに記します。

私（吉田）は、大垣市役所に勤めていました。三城支所と言う所でとても忙しい経験をしていました。人数が少なく、しかも訪問客は多く、自分自身の仕事を犠牲にして、窓口対応をしていました。ですから、自分自身の仕事は、午後5時を過ぎてから、10時頃まで行うのが日課でした。

ところがある時、支所長から「吉田君、5時までに仕事ができないのか。」と言われました。「はあ？」と言いたいほどのショックでした。（➡次のページへ）



神学塾同窓会総会  
を右記のとおり開催  
します。

近況報告と祈り会  
を通して交流したい  
と考えています。

ぜひ、ご参加くだ  
さい。

## 19年7月の同窓会総会 開催のお知らせ

と き 7月15日（月）14:00 から  
ところ 東海聖書神学塾（TEL052-321-7516）  
（金山クリスチャンセンター3階）  
名古屋市中区金山 2-1-3  
主な議題 事業・会計報告、近況報告と祈り会  
締め切り 7月12日（金）までに事務局へ

連絡先（大鐘朝博宅）

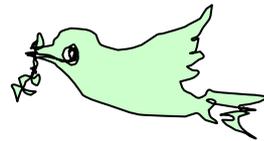
Tel 090-5622-8489

Mail : dai2colint520@sf.commuja.jp

(➡)こんなに自分を犠牲にして仕事をしているのに、と、かなり腹が立ちました。ところが、その夏になると仕事が、がたっと減って、来客者も少なくなりました。昼間の仕事がなくなってきたのです。5時に帰れそうです。あれれ…。

言われた時は、支所長を恨む気持ちもありましたが、あとでそれは神様からの声だとわかりました。それで、40代半ばの時に、神学塾へ導かれたとき、仕事は神様が何とかして下さると信頼して、塾に通うことができました。感謝でした。

## 人をゆるすこと



今回のリトリートの講師は、河野勇一師でした。初日は、「良い奉仕者になるために」と題し、語ってくださいました。

大切なことは、「人をゆるすこと」。神学をするためには、憎しみがあってはならない。マタイ 18:21~35 で、ペテロが、イエスに尋ねている。「兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」しかし、イエスの答えは、「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。…。」

主は、私を、赦せる人に変えることができる。

イエスのたとえ話には、王様が1万タラントをゆるした(借金をゆるす)話がある。しかし、それは、王様が、1万タラントを損することを意味している。

私たちは、イエスが、自分から、私たちの負い目を負ってくださった、ということを知っている。それは、イエスが、私たちのために大きな損をしてくださったということ。



河野師は、ある時、古い本をいただいたことがある。内村鑑三の革表紙の本でサインがあった。ある時、古くなってきたので表装を直してもらった。とてもきれいになったので喜んだが、よく見るとサインがなかった。

サインあってこそ、この本に大きな価値がある。そう思っていた河野師は、猛然と怒って帰ってしまった。

しかし、聖句を思い出し、もう一度出かけて行き、仲直りをした。

今ではサインのないその本こそが、河野師の宝物になっている。(その本を見ることによって自分の罪を覚えることができるから。)

(文責 吉田)

